令和４年度 第２回 金沢シビックテック推進協議会

日時：令和５年２月 28 日(火) 16:00～17:30
場所：金沢市役所第二本庁舎 ３階 第１研修室

次　　第

１　開　　会

２　報告事項

令和４年度事業執行状況について・・・・・・・・・・・・資料１

令和５年度事業執行予定について・・・・・・・・・・・・資料２

３　審議事項

議案第１号　地域課題解決マッチング事業　解決チームに対する支援について・・・・・・・資料３

４　閉　　会

資料１

令和４年度事業執行状況

令和５年２月

令和４年度の協議会事業の進捗状況は、以下のとおりである。

（１）地域課題解決マッチング事業

地域課題を募集・公開し、その地域課題について ICT を活用して解決に取り組んでみたい作り手を募集した。

その後、地域課題応募者と作り手等が参加するマッチングイベントを開催した結果、６つの地域課題と作り手がマッチングした。

そのうち、企画書の提出があった３件について、支援の可否を決定する予定である。

（２）シビックテック塾開催事業

10 月から 12 月にかけて全３回開催し、20 名が受講した。

（３）オープンデータ官民ラウンドテーブル開催事業

データ公開要望募集に先立ち、市民団体等向けのデータ活用講座を開催した。

データ公開要望を募集した結果、イベントとしての官民ラウンドテーブルの成立は困難と予想されたことから中止し、データ公開要望に対して個別に回答・公開することとした。

（４）情報発信事業

ポータルサイト及び facebook ページを運用し、協議会事業の周知や募集など、積極的な情報発信を実施した。

１　地域課題解決マッチング事業

市民等から具体的な地域課題（お困りごと）を募集・公開し、その地域課題について ICT を活用して解決に取り組んでみたい作り手を募集する。その後、課題応募者と作り手をマッチングし、解決に向けた支援を行うことで、地域課題の解決を図る。

（１）　地域課題（お困りごと）募集

・募集期間：令和４年７月 21 日（木）～ ８月 19 日（金）
・募集内容：生活している地域の課題や、日頃感じているお困りごとなど、具体的な地域課題（お困りごと）
・応募数　：８件

（２）　作り手募集

・募集期間：令和４年９月 27 日（火）　～ 10 月 21 日（金）
・募集内容：課題応募者と ICT を活用して解決に取り組んでみたい以下のいずれかの方
「ICT を活用してアプリ開発などができる方」
「ホームページなどのデザインができる方」
「地域課題に興味があり、解決に向けて一緒に考えてみたい方」
・応募者数：８名

（３）　マッチングイベント

・日時：令和４年 11 月２日（水）19：00 ～ 21：00
・会場：金沢学生のまち市民交流館 交流ホール
・内容：課題応募者による地域課題のプレゼンテーション
課題応募者と作り手等による解決アイデアのディスカッション
課題応募者と作り手のマッチング

【マッチングイベントでのマッチング状況】

・地域課題　　：６件（応募があった８件のうち、作り手募集時に作り手が選択した６件についてマッチングイベントを実施）

・作り手　　：７名（応募があった８名のうち、７名出席）

・マッチング件数　：６件

No.	地域課題（お困りごと）	マッチングした作り手の人数
1	スクールサポート隊用のマップを作成したい！	４名
2	古紙集団回収を地域と一体で取り組みたい！	１名
3	地下道の利便性を向上させたい！	１名
4	用水への転落事故を防ぎたい！	１名
5	聴覚障害者に対する医療機関での対応状況を知りたい！	３名
6	アパート、マンション、シェアハウスの居住者も町会の活動に取り込みたい！	２名

【マッチングイベントの様子】

（４） 開発アプリの公開

令和３年度地域課題解決マッチング事業にて支援を行ったフードドライブアプリについて、開発チームにより公開された。

当初は入出庫アプリの開発からスタートしたが、食品を寄付する側より、窓口の場所や開設日時がわかりにくいことから、地図上で簡単に検索可能な機能も欲しいという声もあったことから、まずは窓口検索アプリを開発することとし、入出庫アプリについては、他都市の多くの事例等も参考にしながら、長期的に業務スキームを精査し、開発を検討していくこととした。

・開発チーム

【リーダー】三浦 稔生 氏　【メンバー】加藤 真透 氏、青海 万里子 氏、川端 陽子 氏

・アプリ概要

①食品持ち込みが可能な窓口を一覧表示

②窓口をタップすると、窓口の開設日や開設時間を表示

③地図上で窓口を表示

④フードドライブの説明を表示

①窓口一覧

②窓口詳細情報表示

③地図上に窓口表示

④フードドライブ説明

２　シビックテック塾

シビックテック及びアプリケーション開発に興味を持つ学生・社会人等を対象に、ＩＴ技術者の指導を受けながら、ノーコードでアプリケーションの制作に最低限必要な知識や技術をオンライン講義・演習の形で学習を行い、将来のシビックテックプレイヤー候補として育成する。

（１）　受講生募集

・募集期間：令和４年９月８日（木）　～ 10 月 11 日（火）

・募集対象：アプリ開発及び地域課題解決に興味がある方（※高校生以上で、金沢市又は金沢市近郊に在住している方）

・応募人数：20 名（受講人数 20 名）

（２）　講義内容

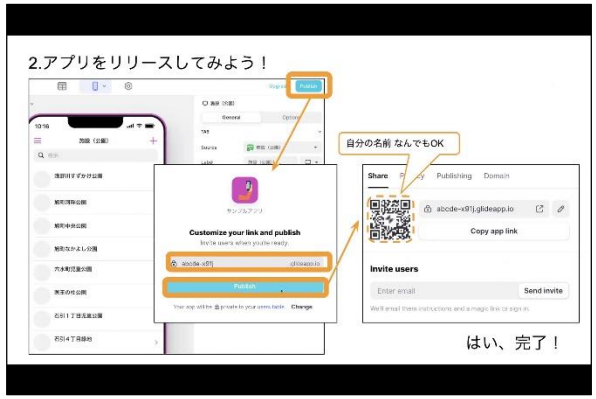
・講義形式：Zoom によるオンライン開催（全３回）

・講義日程及び内容

開催日	内容	時間
10 月 22 日（土）	シビックテックとは（講義） ノーコードとは（講義） 自己紹介 ノーコードの練習問題	13：00 ～ 13：30 13：30 ～ 14：30 14：30 ～ 15：00 15：00 ～ 16：00
11 月 19 日（土）	考えてきたアイデアの発表 プロダクトの作成（演習）	13：00 ～ 14：00 14：00 ～ 16：00
12 月 10 日（土）	プロダクトの作成（演習）	13：00 ～ 16：00

※希望者には 17:00 までサポート

【シビックテック塾の様子】



・講師：雄谷 峰志 氏、佐々木 修吾 氏（一般社団法人コード・フォー・カナザワ）

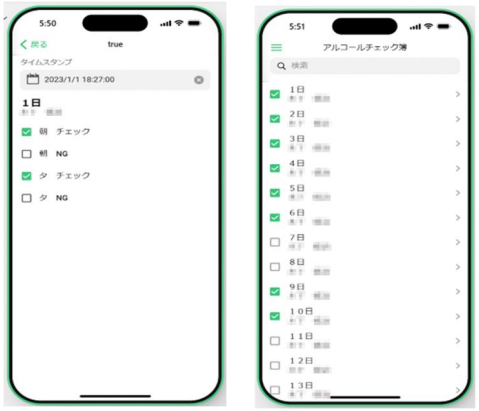
（３） 受講生開発アプリ（例）

【雪かき応援したい】

雪かきをしてほしい人が住所、希望する日、希望する時間帯、およその広さを登録し、
雪かきをできる人が応援の欄に記載して対応する。

【アルコールチェック簿】

社用車を運転する際の、アルコールチェッカーのチェック簿。
上長もスプレッドシートで実施状況をチェック可能。

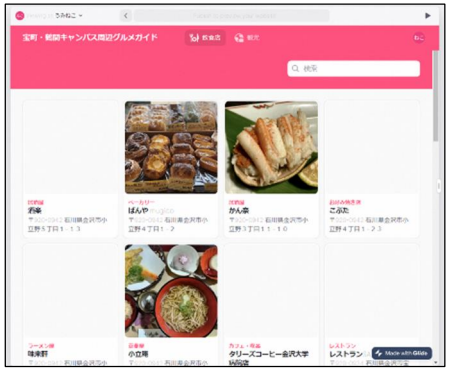


【金沢市図書館一覧】

金沢市図書館の画像が一覧表示。
画像をクリックすると図書館の所在地、開館時間、閉館時間、定休日が表示される。
Google マップ表示するボタンをクリックすると、
その図書館の場所が Google マップで特定できる。

【宝町・鶴間キャンパス周辺グルメガイド】

現在、金沢大学医学類と保健学類の食堂が閉鎖しており、
学生の食環境改善の参考のための周辺ガイド



【タスク管理】

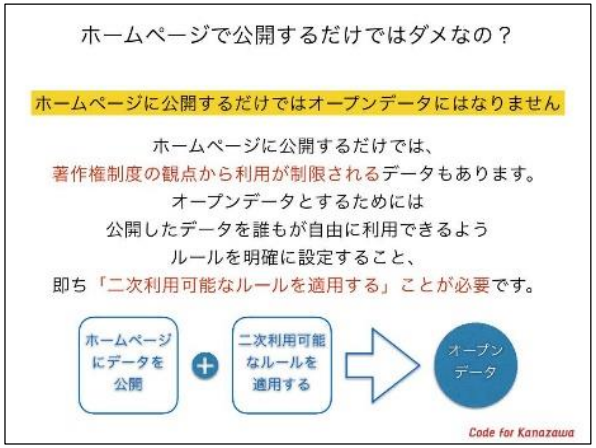
必要なタスクを分類ごとに分け、それぞれの分類ごとに編集が可能。

３　オープンデータ官民ラウンドテーブル

市民活動等に利用可能なデータの公開要望を募集し、市民等や有識者、市担当課の間で公開要望や公開可否について意見交換を行うほか、市民団体等向けのデータ活用講座を開催する。

（１）　オープンデータ活用入門講座の開催

・開催日時：令和４年 10 月 27 日（木）19：00 ～ 20：00
・開催場所：Zoom によるオンライン開催
・応募人数：29 名
・講座内容：オープンデータとは、活用するメリット、活用方法、活用事例　など
・講　　師：福島　健一郎　氏（一般社団法人コード・フォー・カナザワ 代表理事、デジタル庁オープンデータ伝道師、総務省地域情報化アドバイザー）



（２） データ公開要望の募集

・募集期間：令和４月 11 月１日（火）～令和４月 11 月 30 日（水）

・募集内容：「教育・文化・観光」分野の金沢市が保有するデータのうち、オープンデータとして公開を希望するもの

・応募件数：２件

（内訳）交通機関を利用して市内を移動した方の移動データ

国民文化祭 2023 にて開催予定の「きものの祭典」の公募用紙

（３） 官民ラウンドテーブル

データ公開要望を募集した結果、イベントとしての官民ラウンドテーブルの成立は困難と予想されたことから中止し、データ公開要望に対して個別に回答・公開することとした。

【データ公開要望と担当課からの回答】

公開要望	担当課	結果	理由等
交通機関を利用して市内を移動した方の移動データ	交通政策課 歩ける環境推進課	×	まちのりの移動データは、 利用規約上個人情報である。
国民文化祭 2023 にて開催予定の「きものの祭典」の公募用紙	国民文化祭推進室	○	－

○：公開　△：今後の課題・検討事項　×：公開不可

４　情報発信事業

シビックテックポータルサイト及び facebook ページを運用し、当協議会の事業や募集について積極的に PR するとともに、当協議会の facebook グループを運用し、委員間の情報共有及び意見交換を実施する。

（１）　シビックテックポータルサイト

・URL：https://kanazawa-civic-tech.jp

・サイト構成

①協議会事業の紹介

金沢シビックテック推進協議会とは

地域課題マッチング事業

オープンデータ官民ラウンドテーブル

シビックテック塾

②シビックテック人材バンク

シビックテック分野で活躍するプレイヤーの紹介及び募集

③他地域事例集

他の自治体等でのシビックテック活動事例や提供サービスの紹介

④シビックテック関連リンク集

全国の Code for 団体及び関連団体の紹介

オープンデータ関連サイトの紹介

⑤お知らせ

協議会事業等についてのお知らせを随時掲載

・ページビュー数：8,451（令和４年１月１日～令和４年 12 月 31 日）

（参考）ページビュー数：9,595（令和３年１月１日～令和３年 12 月 31 日）

（２） facebook ページ

・フォロワー：73 名（令和５年１月 31 日時点）

・投稿件数　：19 件（令和４年１月１日～12 月 31 日）

（３） facebook グループ

・投稿件数：９件（令和４年１月１日～12 月 31 日）

5　その他

【総務省広報誌での取り組み紹介】

総務省広報誌９月号において、金沢市の文化やデジタル化の取り組みとともに、シビックテックの推進についても紹介された。

（本文）

スローガンとして「行かない・書かない・待たない市役所」を掲げる金沢市は昨年度までに約 1900 の手続で押印を廃止し、395 の手続をオンライン化するとともに各職場のフリーアドレスやテレワーク、事務系ネットワークの無線化、オンライン会議環境の導入を終えました。今年度は決裁の原則電子化や会議のペーパーレス化により、コピー用紙の使用量の 50％削減（令和元年度比）を目指しています。

また、市民がテクノロジーを活用し、地域の課題を自分たちで解決するシビックテックにも力を入れており、推進協議会の設置やアプリ開発を学んでもらうシビックテック塾などで裾野の拡大を図っています。実践的な取組である地域課題解決マッチング事業はＩＣＴで地域課題を解決する作り手と課題を抱える市民をマッチングし、共に取り組んでもらうもの。昨年度は地図上に古紙等回収拠点を表示し、回収品目なども分かりやすく調べられるアプリが開発・公開されました。

市民自ら地域課題を解決するまちに

デジタル戦略の推進

スローガンとして「行かない・書かない・待たない市役所」を掲げる金沢市は昨年度までに約1900の手続で押印を廃止し、395の手続をオンライン化するとともに各職場のフリーアドレスやテレワーク、事務系ネットワークの無線化、オンライン会議環境の導入を終えました。今年度は決裁の原則電子化や会議のペーパーレス化により、コピー用紙の使用量の50％削減（令和元年度比）を目指しています。

また、市民がテクノロジーを活用し、地域の課題を自分たちで解決するシビックテックにも力を入れており、推進協議会の設置やアプリ開発を学んでもらうシビックテック塾などで裾野の拡大を図っています。実践的な取組である地域課題解決マッチング事業はＩＣＴで地域課題を解決する作り手と課題を抱える市民をマッチングし、共に取り組んでもらうもの。昨年度は地図上に古紙等回収拠点を表示し、回収品目なども分かりやすく調べられるアプリが開発・公開されました。

令和３年11月のシビックテックサミットカナザワ2021。インプット（講演）とワークショップを実施。

公開要望を受け、市民や有識者、市担当課が意見交換するオープンデータ官民ラウンドテーブル。

地域課題を抱える人とICTを活用する作り手が語り合う地域課題解決マッチングイベント。

古紙等回収拠点マッピングアプリを開発した市民チームが村山市長に完成を報告した。

加賀野菜と金沢のブランド水産物

金沢市では、平成9年に生産者や農業・流通関係団体等とともに金沢市農産物ブランド協会を立ち上げ、昭和20年以前から金沢で栽培されている伝統野菜15品目を「加賀野菜」と認定しています。

また金沢の風土を生かして生産された優れた農産物6品目を「金沢そだち」として認証し、消費者への周知と信頼を高めることにより、加賀野菜と併せ生産振興と消費拡大を推進しています。同様に金沢の海の幸についても、その総称を「海幸金沢」と銘打ち、「金沢甘えび」「加能ガニ」「金沢箱」のブランド化を推進するため、産地とともに品質向上とPRに取り組んでいます。

金沢そだち6品目（すいか、小玉すいか、なし、トマト、だいこん、きゅうり）。

「海幸金沢」の金沢甘えび。旬は9～2月。

加賀野菜15品目（金時草、加賀太きゅうり、たけのこ、打木赤皮甘栗かぼちゃ、ヘタ紫なす、加賀つるまめ、赤ずいき、加賀れんこん、さつまいも、金沢一本太ねぎ、源助だいこん、金沢春菊、二塚からしな、金沢せり、くわい）。

2022 September Vol.261 ◀ MIC 16

【シビックテックサミットカナザワ 2022 の開催】

「シビックテックサミット」は、ICT を活用したまちづくりや地域課題解決に取り組むシビックテック活動を広く市民に周知し、市民協働を推進するためのイベントである。

今年は、「学生」「働くお母さん」「LGBTQ+」にフォーカスしながら、テクノロジーを活用して住みよいまちにするためのアイデアについて参加者全員でディスカッションを行うことで、「みんな」にとって住みよいまちづくりを考えるイベントとした。

・日時：令和４年 11 月 12 日（土）10:00～17:00

・場所：金沢未来のまち創造館

・概要

（セッション１：学生）　ゲスト：村山 愛乃さん（金沢まちづくり学生会議代表）

ゲストから、コロナ禍などによりまちなかに学生が出ていきにくくなったことや、友達づくりが難しくなっているという課題が提供された。

会場からは、テクノロジーを活用して偶発的な出会いを作るアイデアなどが提案された。

（セッション２：働くお母さん）　ゲスト：小幡 美奈子さん（石川シングルマザーの会代表）

ゲストから、コロナ等での休校時に子どもの預け先がなく、シングルマザーは仕事を休まざるを得なくなるなど、シングルマザーには働くお母さんの課題が凝縮されているという課題が提供された。

会場からは、子どもと遊びたい男性や預かりたい方とのマッチングサービスなどが提案された。

（セッション３：LGBTQ+）　ゲスト：こぴさん

ゲストから、同姓パートナーとの交際に家族から否定的な反応をされたことから、特別なことではないということを知ってほしいという課題が提供された、

会場からは、テクノロジーを活用した周知や支援者たちとのつながりの場づくりなどが提案された。

【市民活動 DX 推進事業】

活動のデジタル化に向け、何から取り組んだらよいかわからない地域団体等に向けた「市民活動 DX スタンダード（デジタルハンドブック）【仮称】」を仮策定し、「市民活動デジタル化講座」を試行実施しました。

（１）市民活動 DX スタンダード（デジタルハンドブック）【仮称】

LINE や Zoom、Google ドライブ等の基本的な操作方法や、実践例としてオンライン書面決議やオンライン総会の開催方法について記載しています。

（２）市民活動デジタル化講座

①対象

校下（地区）町会連合会において事務を担当する職員等

②開催日時及び内容、受講人数

令和５年１月 11 日（水）14:00～15:30　【初級】LINE を活用したコミュニケーション　受講人数：４名

令和５年１月 19 日（木）14:00～15:30　【中級】Zoom を活用したオンライン会議　受講人数：８名

令和５年２月 14 日（火）14:00～15:30　【上級】Google を活用したデータの共有　受講人数：13 名

③開催場所

長土塀青少年交流センター　４階大集会室

資料２

令和５年度事業執行予定

令和５年度の協議会事業の執行予定は、以下のとおり。

１　地域課題解決プロジェクト事業

市が令和５年度から正式に運用を開始する共創プラットフォーム上で、市民や団体、企業等の様々な主体が、地域課題の共有と解決に向けたディスカッションを行う。

解決に向けた協働が可能な場合は、希望者で「プロジェクトチーム」を結成し、解決に向け取り組む。

令和５年度の方向性

・共創プラットフォーム上で、課題を持つ方と解決に取り組んでみたい方が随時つながり、解決に向けて取り組むスキームとする。

・事業のスキームは以下のとおり。

①課題を持つ市民等が、共創プラットフォーム上で課題を提供する。

②市民や団体、企業等の様々な主体が、解決アイデアの提案など解決に向けたディスカッションを行う。

③課題解決に向けた協働が可能な場合は「プロジェクトチーム」を結成する。

④ICT を活用した解決アイデアについては、解決に向けた企画を事務局に提出することで、審査の上、支援を行う。

２　シビックテックスクールの開催

ICT を活用した地域課題解決に興味を持つ方を対象に、ノーコードツールを活用したアプリ等の開発や、Google アプリケーションの活用に関する講座を開催することで、地域課題を自ら解決できる人材を育成する。

令和５年度の方向性

・従来のノーコードツールに加え、Google マップや Google ドライブ等の講座を開催することで、より手軽な ICT を活用した課題解決を支援する。

３　データを活用した課題解決の推進

市民等が、データを活用した地域課題解決について学ぶワークショップを開催する。

令和５年度の方向性

・データの「活用」をより重視した講座とし、市民自らによる課題解決を支援する。
・データの「公開」については、デジタル行政戦略課の事業として継続し、募集フォーム等で随時公開要望を受け付ける。

４　情報発信等事業

シビックテックポータルサイト及び facebook ページを運用し、当協議会の事業や募集について積極的に PR するとともに、企業向け PR 用デジタルパンフレットを作成し、配布・公開する。

令和５年度の方向性

・デジタル関係企業及び企業に勤務するエンジニア等を対象に、シビックテック活動への参加を促すため、シビックテックの紹介や参加するメリット等を紹介するデジタルパンフレットを作成する。
・引き続きポータルサイト及び facebook ページの運営を行い、情報発信の充実を図る。

５　その他事業

【シビックテックミーティングの開催】

地域の市民や団体等を主な対象とし、シビックテックに取り組む方々や興味がある方々と、地域課題を持つ方々が実際に顔をあわせ、協働につなげるためのイベントを開催する。

令和５年度の方向性

・これまではシビックテック活動を市の内外に周知することを目的に、全国大会として開催してきたが、６回の開催を経て一定の成果をあげたことから、今後はシビックテック活動の周知という原点に立ち返り、地域の市民や団体等主な対象としたイベントとする。

【共創プラットフォーム（地域課題解決マッチングボックス「マッチ箱」）の運用】

地域課題の解決に向けて、市民や団体等がディスカッションを行い、解決に向けた協働を行うための共創プラットフォームについて、本格運用を開始する。

令和５年度の方向性

・４～７月に試行運用を実施し、８月から本格運用を開始する。本格運用開始後は、市の課所についても参加可能とする。

【市民活動 DX 推進事業】

令和４年度に策定する「市民活動 DX スタンダード（デジタルハンドブック）【仮称】」を活用し、地域団体等へ展開する。

令和５年度の方向性

・地域団体を対象としたデジタル化講座を引き続き開催する。

金沢シビックテック推進協議会　委員名簿

（５０音順、敬称略）

区分	氏名	役職	備考
委員	小俣 博司	オープン川崎 代表	
委員	中田　明秀	金沢市 PTA 協議会　副会長	
委員	濵田　尚則	一般社団法人石川県情報システム工業会　副会長	
委員	福島　健一郎	一般社団法人コード・フォー・カナザワ　代表理事	
委員	松井　くにお	金沢工業大学工学部情報工学科　教授	
委員	眞鍋　知子	金沢大学　融合研究域 融合科学系　教授	
委員	矢後 智子	NPO 法人ネットワークアシストたかおか　副理事長	
委員	山口　いづみ	NPO 法人あかりプロジェクト　代表理事	
監事	松本　明	金沢市会計課長	

令和４年度第２回　金沢シビックテック推進協議会　会議概要

日時　：令和５年２月 28 日（火）16:00～17:30
場所　：金沢市役所第二本庁舎 ３階 第１研修室
出席者：小俣　博司　　オープン川崎 代表
　　中田　明秀　　金沢市 PTA 協議会　副会長
　　濵田　尚則　　一般社団法人石川県情報システム工業会　副会長
　　福島　健一郎　　一般社団法人コード・フォー・カナザワ代表理事
　　松井　くにお　　金沢工業大学工学部情報工学科　教授
　　眞鍋　知子　　金沢大学　融合研究域 融合科学系　教授
　　矢後　智子　　NPO 法人ネットワークアシストたかおか　副理事長
　　山口　いづみ　　NPO 法人あかりプロジェクト　代表理事
　（五十音順）
　事務局　松田市民局長、木谷市民協働推進課長、山田市民協働推進課長補佐、
　　川本係長、神田主査

１. 報告事項

令和４年度事業執行状況について（資料１）
令和５年度事業執行予定について（資料２）

２. 議案

議案第１号　地域課題解決マッチング事業　解決チームに対する支援について（資料３）

３. 議案審議

議案第１号について承認した。

４.委員意見等

令和４年度事業執行状況について（資料１）

【委員】

シビックテックサミットカナザワ 2022 について、参加者は何名で、どのような方々が参加されたのか。また、どのように参加者を募集したのか。

【事務局】

約 20 名の方にご参加いただいた。

参加者は、今回のディスカッションのテーマに興味があると思われる、比較的若い世代の方々が多かった印象である。

周知には毎回苦労しているところだが、チラシを作成し、関係機関や関係団体等に配布したほか、ホームページや SNS 等を活用して周知に努めた。

【委員】

シビックテックサミットカナザワ 2022 について、オンライン配信等は実施したのか。その際の視聴数は何件程度か。

【事務局】

YouTube Live を活用し、リアルタイムで配信を行った。アーカイブも公開しており、現時点での視聴回数は、377 回である。

【委員】

面白そうなアプリが開発されているが、知ってもらわないと利用されない。知ってもらうための施策は実施しているか。

また、ダウンロード数等は記録しているか。

【事務局】

地域課題解決マッチング事業にて開発された「古紙等回収拠点地図マッピングアプリ」については、当協議会のポータルサイトのほか、金沢市の市民協働推進課及びごみ減量推進課のホームページで紹介している。

今回開発された「フードドライブアプリ」については、完成したばかりであるため、今後どのように周知していくか検討したい。

ダウンロード件数については、上記２つのアプリはいずれも Glide というノーコードツールで開発されたウェブアプリであることから、ダウンロードを行わずに利用可能である。アプリへのアクセス数については、作成者側に確認したい。

【委員】
シビックテック塾で受講生が開発したアプリから、今後、地域課題解決マッチング事業で活用可能なものが出てきそうな気がする。

【事務局】
そのとおりであると考えており、実際に今回の地域課題解決マッチング事業で審査いただく企画の一つが、昨年度のシビックテック塾で受講生が開発したアプリを活用するものである。

【委員】
シビックテック塾で受講生がどのようなアプリを開発したかが、一覧でわかるとよいのではないか。

【事務局】
当協議会のポータルサイトでは、年度ごとにシビックテック塾の成果をとりまとめて公開しているが、これを一覧でも公開できないか、検討したい。

【委員】
市民活動DXスタンダード（仮称）について、Zoomを否定するものではないが、GoogleドライブやGoogleフォームの利用について説明していることから、オンライン会議についてはZoomよりGoogle Meetの方がよいのではないか。

【事務局】
今後も様々なご意見を頂きながらアップデートしていきたいと考えているので、参考にさせていただく。

【委員】
シビックテック推進事業が情報政策課から市民協働推進課に移管されて約２年が経過したが、シビックテックの市民への浸透は進んでいると感じているか。

【事務局】

市民協働推進課に事業が移管されてからは、ＩＣＴを活用した課題解決をできるだけ市民に身近に感じていただけるよう、様々な事業を実施してきた。

その成果は少しずつ表れていると感じている。

例えばシビックテックサミットでは、これまではエンジニア等の参加者が多かったが、昨年は「地域を支える市民団体の活動に IT を！」をテーマに開催したところ、若者から高齢者まで、また、地域団体や市民団体等からも多く参加いただいた。

その他にも、今年の地域課題解決マッチング事業では、昨年度のシビックテック塾で学んだ市民が作り手として参加するなど、エンジニア以外にもシビックテックが浸透しつつあると感じている。

【委員】

地域課題解決マッチング事業について、私も課題を応募しようとしたが、本当にこのような課題でよいのか、既にアプリが公開されているのではないかなど色々考えてしまい、結局応募できなかった。

どんな課題でもよい、既にアプリがあるものでもよいなど、課題応募のハードルを下げるような広報があるといいのではないか。

【事務局】

課題については、あまり意識せず、課題だと感じたものをどんどん出してもらう方が、作り手は作りやすいのではないかと考えている。

課題は出てくることが重要であり、シビックテック推進事業に取り組み始めた当初はなかなか課題が出てこなかった。

その際に、例えば「地元で」や「あなたが」という尋ね方をすると意外と課題が出てきたので、そういったアプローチを意識していきたい。

【委員】

市民活動デジタル化講座において、地域の方に Google ドライブの利用方法を伝えることは、非常に良い取り組みであると感じた

町会運営は紙が多く引き継ぎも大変なため、Google ドライブでデータを共有し、引き継いでいくことができれば非常に効率的である。

【委員】

市民活動 DX 推進事業について、とても良い取り組みであると感じる。ハンドブック形式に加えて、動画でも伝えることができればなお良いのではないか。

また、シビックテックはエンジニアなど特別な人だけが取り組むものではないため、このように市民のデジタル化を進めていくことで、シビックテック塾でエンジニアではない人がアプリ開発について学び、地域課題解決マッチング事業にてチームで課題解決に取り組むといった、他の都市にはなかなか真似できない金沢市独自の仕組みができていくのではないか。

令和５年度事業執行予定について（資料２）

【委員】

地域課題解決マッチング事業は持続可能性に課題があると感じていたので、共創プラットフォームを活用して改変することには賛成である。

ただ、共創プラットフォームを構築しただけで、そこに様々な議論やグループが自然発生するというのは考えにくいので、ファシリテーターのような方が常駐し、議論のとりまとめ等を行うことが必要となってくるのではないかと思うが、そのあたりの運用についてはどう考えているか。

【事務局】

利用者が集まらないという事態にならないよう、最大限対策を実施していきたいと考えている。

また、ファシリテーターのような方も必要であると考えていることから、まずは積極的かつ定期的に周知を行い、シビックテックコミュニティや市民活動団体などにもお声がけをしつつ、令和５年４月からの試行運用期間中に効果的な運用体制について見定めていきたい。

【委員】

共創プラットフォームのようなサービスは他自治体にもあるが、盛り上げていくためには議論をファシリテートしていくことが必要だろう。

また、主張が強い方がいたりするが、それをどうマネジメントしていくか。デジタルだと意見を主張しやすいこともあり、いわゆる「炎上」には十分注意する必要がある。

【事務局】

議論のファシリテートや炎上対策などについては、先行している他都市へ問い合わせなども行いながら、準備を進めていきたい。

【委員】

市民に広報することも重要だが、「市民が相談する人」を作ることも重要である。デジタル化講座等を受講後、質問したいときに質問する相手が近くにいるということが重要である。他都市では、社会福祉協議会などを巻き込んでそのような人材を育成している事例もある。

【事務局】

講座等を受講して、その場では理解したつもりでも、実際自分で試してみようとしたらわからない。という状況はきっとあるだろう。

その際に、気軽に質問できる相手や環境があれば、地域のデジタル化もより促進されると考えられえることから、そのような施策についても検討したい。

【委員】

共創プラットフォームにおいて、課題は随時出てくるのではないかと思うが、解決に向けて協働する「作り手」は、あらかじめストックしておく必要があるのではないか。

課題が提示された際に、作り手に課題を紹介するような仕組みが構築できれば、解決に向けたコーディネートが上手くいくのではないか。

【委員】

私もそれは重要であると考えている。

作り手は、シビックテックコミュニティのほか企業や学生なども考えられるが、課題が提示された際に、漠然と「誰かやりませんか？」だと、誰も手を上げない可能性がある。

作り手のメリットなども考えながら、積極的に解決に向けてコーディネートしていく必要があるのではないか。

地域課題解決マッチング事業　解決チームに対する支援について（資料３）

※審査に係る事項のため、非公開